

H19_Ⅲ 都市公園・緑地に関するアンケート調査

調査項目 都市公園・緑地に関するアンケート調査

調査年次 平成19年度 章番号〔Ⅲ〕

目的

本アンケート調査は、大都市における住民の都市公園に関する意向を把握すると共に、平成9年度、平成17年度調査との比較を行い、住民意向の変化等を探り新規施策展開の基礎資料とすることを目的とする。

概要

アンケート調査により、住民の都市公園や緑に関する意向を把握すると共に、平成9年度、平成17年度調査との比較を行い、住民意向の変化等を探った。また、都市別に個別の質問を設定し、インターネットを使った民間のモニター制度を使って、送付・回収を行った。被験者数は23区を含む政令指定都市で各都市に居住する500人（有効回答数）全体数は、 500×18 都市=9,000人とした。

結果

■ 本年度調査について

①都市の緑や公園の緑の増減

1) 都市の緑

10年前と比べて都市の緑が減っていると半数近くが回答していた。

2) 公園の緑の増減

10年前と比べて住んでいる都市の公園が増えているとも減っているとも感じていないという回答が6割近くあり、増えていると減っているがほぼ同数であった。

3) 今後増やしたり、守ったりすべき緑

身近な緑の中では、公園の緑が6割、街路樹などの道路沿線の緑が5割、川など水辺の緑が4割程度であった。

②公園や緑の機能

1) 緑の重要な機能

二酸化炭素の削減など地球環境の改善、町や生活に潤いを与えるが6割程度であった。ヒートアイランド現象の緩和など都市環境の改善については、名古屋市以外の都市で前回より増えていた。

2) 公園の重要な機能

街や生活に潤いを与える、高齢者や子どもたちの安全な休息や遊び場がほぼ半数であった。

3) 公園で必要な機能

身近な公園、都市内の大きな公園ともに、年代が高い層ほど災害時の避難地として必要であると考えている人が多かった。また、年代が低い層ほどスポーツ施設の整った公園が多くなっている。

③公園の整備、管理、運営

1) 公園の管理について

よく管理されているが4割程度、あまりよく管理されていない、どちらともいえないがともに3割程度であった。

2) 公園の整備や管理運営について

サイクリングロードやドッグランなど用途に合わせた施設、トイレの清掃、防犯体制、災害等の非常時対策等の整備、利用者のマナー対策・禁止行為の周知など、人に対する意見が多く見受けられた。

公園の管理や運営の参加意向は、どちらともいえないと態度を決めかねている人が6割ほどいた。前回同様女性より男性のほうが参加したい人が多かった。

④公園の利用

1) 身近な公園の利用

身近な公園の利用頻度は、年に数回が4割程度で最も多く次いで月に2、3回、週に1回となっている。

2) 都市の大規模公園の利用

調査項目 都市公園・緑地に関するアンケート調査

調査年次 平成19年度 章番号〔Ⅲ〕

大規模公園の利用頻度としては、年に数回が約半数であった。子育て世代である女性30代は全体と比べて「月1回以上」利用する人が多い。

⑤行政に対する期待

緑を増やしたり守ったりするために今後行政に期待することは、公園の整備や街路樹の植栽など緑化施設の整備が最も多い。

公園の整備や管理について行政に期待することとして、遊具の点検、自然の造形を活かした公園作り、マナーの啓発、災害時対策、治安に配慮した死角のない公園作りなどの声が多く見受けられた。

⑥公園や緑の多い、美しい都市

世界で公園や緑が多く、美しいとイメージされる都市として、ニューヨーク、パリ、ロンドン、スイス等の都市をあげる声が多かった。

⑦各イメージに該当する公園

“他の人に紹介したい公園”“緑の豊かな公園”“花や樹木が美しく季節感のある公園”“観光に役立っている公園”についてイメージする公園という質問でいずれもトップを獲得した公園は、新潟市「鳥屋野潟公園」、さいたま市「大宮公園」、静岡市「駿府公園」、広島市「平和記念公園」、福岡市「大濠公園」であった。

■ 平成9年度調査との比較

10年間の都市公園に対する市民意識の変化を把握した。

①公園や緑の機能

1) 緑の重要な機能について

前回調査においては、「心に安らぎや落ち着きを与えてくれる」(75.9%)が1位であったが、今回調査では「二酸化炭素の削減など地球環境の改善」(66.1%)が1位であった。

2) 身近な公園で必要な機能について

前回今回とも年に数回程度が1位であった。ほとんど毎日は今回3.9%と前回の8.5%より低く全体的に利用率は低くなっている。

3) 都市内の大きな公園での必要機能について

自然豊かな公園を望む傾向が今回前回とも上位であった。また、防災公園としての機能を望む傾向も多く、大規模な公園は防災機能の発揮を期待されている。一方、スポーツについては減少しておりスポーツ熱の低下が見られる。

②公園の利用

1) 身近な公園の利用

前回今回とも年に数回程度が1位であった。今回調査では「時間つぶし」を設定しており、特に目的もなく立ち寄り利用者が多数いることが確認できた。

2) 都市内の大きな公園の利用

「年数回利用する」が前回の38.6%から今回は54.6%と増加している。また、「月数回程度利用する」は、前回(17%)から今回(23.9%)と増加している。「週に一回以上」は前回(11.7%)から今回(4.7%)と減少している。全体的に、頻繁に公園を利用する率は低いが、年間で見ると利用者は増えている。

③今後増やしたり、守ったりすべき身近な緑について

前回今回とも上位3位までは変化がみられなかったが、前回10.3%だった雑木林などの緑が今回は24.7%、山林が9.2%から斜面や山麓の緑が20.3%と倍以上の結果であった。守るべき緑への期待が大きい。

④身近な公園の管理状況について

前回今回とも「散歩や休息」が1位であった。

⑤各都市における評価の高い公園について

ほとんどの都市で前回調査と変化はみられなかったが、東京23区は全体的に変動があった。

調査項目 都市公園・緑地に関するアンケート調査

調査年次 平成19年度 章番号【Ⅲ】

課題

今回の調査で減っている緑として、空き地の緑、農地、雑木林の緑が挙げられていた。今後は公園の緑や街路樹など道路沿線の緑、川辺の緑など都市の緑を必要と感じており、緑の保全や増やしていくための方策について各市で取り組んでいくことが必要であろう。また、公園を市民活動の場所として求めており、情報が少ないという声も多いため公園で活動が出来るような情報発信の方法について検討することが求められる。

10年前との比較では地球環境の改善への期待が大きく、今後も公園や緑地などを増やすとともに、より一層の緑の保全に努力していく必要があるだろう。また、求められる公園の機能としては安全に利用できる公園に次いで、新たに災害時の避難地としての機能を求めている意見も多かった。

このようにアンケート調査をすることで、住民意見の傾向などを年度を追って比較することができるため、今後も定期的にこの様なアンケート調査を行い、公園緑地施策を反映するための基礎情報の把握を行っていくことが必要である。

調査結果反映等

キーワード

都市公園、緑地、公園の緑、緑の機能、管理運営、公園の利用、住民意見

事例公園等